

Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.60
2015.1

大特集 Report!

2日間開催しました！
男女共同参画フォーラム
〜みえの男女^{ひと}2014〜

○岩田 喜美枝さん講演会

「女性はもつと活躍できる！」

「より企業を元気に、男女とも人生を豊かに！」

○佐々木 常夫さん講演会

「上司が変わると企業が変わる」

「イクボス？ダメボス？今、求められる上司になるためのヒント」

○パネルディスカッションや

ワークショップの様子など盛りだくさん！

「働くあなたへのメッセージ」

エッセイ

最終回

レディオキューブFM三重
西本亜裕子 アナウンサー
「はぴはぴエッセイ」

予告

今年度まだまだやります！
春に向けて！
『働く女性のネットワーク化』
始動！



男女共同参画フォーラム ～みえの男女2014～

基調
講演

「女性はもっと活躍できる! ～より企業を元気に、男女とも人生を豊かに～」



岩田 喜美枝さん (公益財団法人21世紀職業財団会長、前(株)資生堂代表取締役・副社長)

プロフィール

1971年東京大学教養学部卒、1971年労働省入省。厚生労働省雇用均等・児童家庭局長を最後に03年退官。03年株式会社資生堂に入社、08年代表取締役副社長に就任。12年7月から顧問、12年3月からキリンホールディングス株式会社社外監査役。12年7月から日本航空株式会社社外取締役、12年7月から公益財団法人21世紀職業財団会長。現在の公職としては男女共同参画会議、中央教育審議会生涯学習分科会、消費者委員会等。

女性の活躍後進国「日本」

日本の女性を仕事と子育ての両立という軸で見ると、30歳代は出産・育児のために退職する人がまだ多くいるため就業率が下がり、その結果をグラフで示すと「M」の形(通称M字カーブ)になります。ところが、世界の主要な経済国で未だにM字カーブが残っているのは日本と韓国だけ。とても特異で、仕事と育児の両立がしにくい国であるということです。また、キャリアアップの軸から管理職に占める女性比率をみると、ここでも日本と韓国は著しく低く、1割程度。役員の女性比率となると日本は約1%です。どちらからみても日本は女性が活躍できる環境整備が恐ろしく遅れています。



企業が何をすれば女性が活躍できるのか

女性が「仕事と子育ての両立」「キャリアアップ」両方を果たすために必要なことは3つ。

まず、育休・時短勤務等の従来の両立支援策の見直しです。人は「仕事体験」で、それも難しい仕事、責任ある仕事を担ってこそ成長します。しかし、育児中の仕事を免除されている期間、成長のチャンスを奪われています。そういう意味から、なるべく早くフルタイムでしっかり仕事をすることがキャリアアップのためには必要です。しかし、長時間勤務が当たり前のように続く環境でフルタイムに戻ることは難しい。前提として長時間勤務をなくすことが必要になってきます。

もうひとつは「フレキシビリティ」。フレックスタイムや裁量労働、在宅勤務など働き方を自由に選択できると、育児や家庭生活と仕事の両立がしやすくなるということです。

3つ目は「男性がしっかり家事・育児を担う」ということ。妻のキャリアアップを望むのであれば、家庭の事は夫も一緒に担うことが必要です。

育児期の父親の意識を見ると、家庭、育児にしっかり自分も関わりたいという人が多数派になりました。しかし、長時間労働が根強いと、男性の家事・育児参加が十分にできていない。長時間労働の是正は女性の活躍推進のためだけでなく、男性にとっても必要です。

どうしたら残業をなくせるか

人手を増やせば残業は減りますが、人件費が増え、企業は競争力をそがれます。残業削減に特に必要なことは2つ。一つ目は仕事を減らすこと。単に仕事を減らすのではなく、仕事の棚卸しをして、優先順位の低いところは思い切ってやめる。選択と集中で、優先順位の高い仕事にマン(人)・アワー(時間)をかけるのです。二つ目は業務プロセスの簡素化。同じ成果、アウトプットを出すために投入する人数、労働時間数をいかに最小化できるかプロセスを見直して、できるだけ簡素化する必要があります。

長時間勤務を減らすにはこのような業務改革が必要です。

ポジティブアクションについて

女性の活躍推進のためには男女に機会の均等を与えるだけでは十分ではありません。私はゴールアンドタイムテーブル方式を推奨しています。これは各企業が実情に応じて、女性の活躍目標(数値目標と達成時期)を決め、そのための行動計画を作るというやりかたです。これにより男女間格差の縮小を速めることができます。

三重県総合文化センター開館20周年を記念し、2日間行われた今年の男女共同参画フォーラム。『働き方』や『企業を変える、社会が変わる』ことをテーマに、基調講演やパネルディスカッション、ワークショップなどを開催、多くの方にご参加いただきました。そんな2日間を熱く大特集!まずは基調講演をReport!

基調講演

「上司が変わると企業が変わる!」 ～イクボス?ダメボス? 今、求められる上司になるためのヒント～



佐々木 常夫さん ((株)佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役)

プロフィール

自閉症の長男とうつ病の妻を持つ。肝臓病をも患う妻は20年の間に43回もの入院、3回の自殺未遂を起こす。育児、家事、介護に追いかける状況の中で、破綻会社の再建やさまざまな事業改革に取り組む。2001年、同期のトップで取締役就任、2003年東レ経営研究所社長。その著書「ビッグツリー」が反響を呼ぶ。2011年ビジネス書最優秀著者賞を受賞。

家族と仕事

私は3人子どもがいますが、一番上の子が自閉症でした。パートナーは肝臓病を患い、そしてうつ病も発症。入退院を繰り返し、2人とも入院しているときもありました。私は家族のために時間を確保する必要がありましたが、それは皆さんも同じです。できない最大の障害の1つが長時間労働と非効率労働です。仕事でよい成果がでることと長時間労働は必ずしも関係はなく、戦略的・効率的な仕事をやらなければいけません。



タイムマネジメントはすべての基本

最近企業でもワークライフバランスという言葉が良く使われますが、定時に帰って生活を充実させようということではなく、個人も会社も共に成長する経営戦略です。定時に帰っても今までと同じかそれ以上の成果を残さなくてはいけないので、仕事の改革があってはじめて実現できる経営戦略であり、タイムマネジメントが重要となってくるのです。

私は良い習慣は才能を超えていると思っています。仕事は絶対計画的でなくてはならない。よく部下にはデッドラインを決めて追い込めと言っています。だらだら仕事をせず、最短コースを選ぶ。仕事は頑張りましたでは済まない、結果を出さなくてはなりません。

タイムマネジメントとは時間の管理ではない、仕事の管理です。戦略的計画立案は仕事を半減させようと思っています。同じ仕事をしても1週間かかる人と2週間かかる人がいる。これは能力の差ではなく、その仕事をどう考えているかの価値観の差と段取りの差です。部下には業務計画書を出させ、私はそれを承認するか修正指示をする、部下に仕事を発注し部下は私から仕事を受注するのです。10人以上の部下を持てばプレイングマネージャーをやる暇はありません。管理職というのは組織を構成する全体の輪を最大限に持っていくことが仕事です。仕事はどこかに偏りがあって適切な配分に変えてあげなきゃいけない。このスタイルに変えてから我が課は残業が1ヶタになりました。



リーダーの定義

私のリーダーの定義は、「一緒に仕事をやって勇気と希望をもらえる人」です。

良いリーダーになるためには、自分の考えをはっきりさせて目的を明確に。プレイングマネージャーになると部下の監督と成長という重要なミッションを放棄することになります。リーダーは時間的余裕を持つことです。忙しそうしていると部下が相談に来ない。悪い情報も入ってこないんです。よくリーダーは叱るよりほめなさい、暗いよりも明るくあれと言われますが、それじゃあ野村さん(野村克也元プロ野球選手・監督)はどうするんですか?ばやいてばかり、あんな暗い人いませんよ(笑)。でも彼は一流のリーダーです。あれが彼の地なんですよ。組織の中でリーダーをやっていくということは、全人格をさらけ出すこと。怒りっぽい人は怒ったらいい。そんなことよりも、このチームで結果を出そうという志、部下を成長させようという志を持つことの方がよほど大事です。リーダーは強くなくてはいけない、実行力がなければいけない。ですが一方で優しさ・思いやりがなければいけない。それぞれの部下、成長に資するという優しさがないといけません。

岩田さん、佐々木さんの講演会のもっと詳しい内容は、フレンテみえのホームページに掲載中です!

[フレンテみえ](#)

[検索](#)



フォーラム
Report!

ここからは基調講演以外の イベントをご紹介します!



パネルディスカッション

8日

「女性はもっと活躍できる! ～より企業を元気に、男女とも人生を豊かに～」

コーディネーター

岩田 喜美枝さん

パネリスト

松浦 慶子さん (万協製薬株式会社専務取締役)

宮路 元美さん (井村屋グループ株式会社総務・人事部長代理)

西本 亜裕子さん (レディオキューブFM 三重アナウンサー)



働く人への
メッセージが
たくさん!



岩田さんをコーディネーターに、県内企業で活躍されている3人の女性から『仕事と家庭の両立』『キャリアアップ』についてご自身の経験や考え、会社での取組などをお話いただきました。松浦さん、宮路さんからはそれぞれの企業の取組などをご紹介いただき、西本さんからは「子育てのため定時に仕事を終えるよう意識して働く事で効率が大幅にUPした」などの経験談を語っていただきました。

今後、働く場で女性が活躍するためには、企業はなぜ女性活躍に取り組むべきなのかを考え、状況に応じた配慮をする、個人では周囲の協力を得て自分が変わる勇気をもつことなどの意見があげられました。

最後に岩田さんからは「今、納得できてなくても状況は必ず変化します。あきらめず、自身が納得する働き方を後輩に見せることで、次世代のロールモデルとなってほしい。」とエールをいただきました。



9日

「イクボス? ダメボス? 今、求められる上司になるためのヒント」

コーディネーター

渥美 由喜さん (内閣府少子化危機突破タスクフォース政策推進チームリーダー)

パネリスト

高祖 常子さん (NPO 法人ファザリング・ジャパン理事マザーリングプロジェクトリーダー)

佐々木 常夫さん



佐々木さんの基調講演を受け、理想の『イクボス』像やそれが企業と個人にもたらすメリットなどについて話し合っていました。渥美さんからはご自分の6Kライフ(会社員、子育て、家事、介護、看護、子ども会)やイクボスとしての部下との関わり方を、高祖さんからは子育てしながら働く女性の立場からのご意見や、そんなママたちを支援する現在の活動などについて語っていただきました。佐々木さんからは「会社でリーダーの責任は大きい、今日のタイトルではないけれど変わることが企業の発展につながる。」とのお話が。渥美さんは「風土は変わらないと言われるが必ず変えられる。佐々木さんや三重県知事のようなトップランナーに共感する人は必ずいます。是非共感の連鎖を起こしてほしい。」と締めくくられました。



「女性の活躍推進三重県会議」キックオフ大会

「女性が輝く三重」を目指して、女性の活躍推進のムーブメントを創出し、より多くの企業・団体等がともに取組を進めていけるようキックオフ大会を開催しました。佐々木常夫さんと鈴木英敬三重県知事との対談をメインに、最後は「女性の活躍推進三重県会議 キックオフ宣言」で締めくくられました。





❄️ ❄️ ❄️ ワークショップ ❄️ ❄️ ❄️



1 育児・介護と仕事の両立を目指す男性へ 自分流ワークライフバランスを考える

渥美由喜さんを講師に迎え、「自分流ワークライフバランスを考える」というワークショップを行いました。渥美さんによるとワークライフバランスとは、天秤のようにワークかライフの二者択一ではなく、ワークという土台にライフがあり、お互いに相乗効果やストレス相殺といった影響を与え合う関係にあるそうです。質の高い生活は、質の高い仕事につながり、メリハリのある仕事は生活の余裕につながり、好循環のサイクルを生み出す第一歩となります。また、「女性さえ活躍できない社会では、自分は活躍できない」という、ご自身が発達障がいであることからも非常に説得力のある言葉をいただきました。人それぞれに多様な生き方や働き方があり、それを認めていくことがこれからは大切とのメッセージがありました。



2 育休復帰後の職場対応・支援のための人事・管理職向けワークショップ 産休・育休復帰…多様な働き方の中でチーム力を上げるイクボスとは



出産や育児、これからは介護を抱えながら働く制約社員が増える中、鍵となるのは上司（ボス）のあり方。そこで高祖さんのワークショップでは、講義だけでなくこれからの実践につながるワークを通して、「イクボスの仕事術」のヒントを得ました。

グループワークでは、「部下が妊娠した場合の上司としての対応」や「育休復帰後の部下への対応」などディスカッションを実施。また、高祖さんからは「人的マネジメント」や「ワークライフバランス」を図るコツなど、具体的な事例を交えた分かりやすいお話も。

参加者からは、「チームメンバーのライフ情報を把握できるような信頼関係を作れるようにしたい」など好評の声をいただきました。

3 ^{ハタチ}20になったフレンテみえ 進んでいますか。あなたのまわりの202030

今回は若い人たちにも是非参加してほしいと、コメンテーターの一人に20代の女性を迎え、会場の後方に託児スペースを設けて、子ども連れの方も気軽に参加できるようにしました。また、コーディネーターの提案でカフェスタイルの進行となり、みなさんリラックスされて会場も一気に和みました。このような今までにない試みを各所に設けたところ、20代～80代の様々な年代の方々に集まっていただきました。ワークショップでは、4人のコメンテーターの話に耳を傾けたり、参加者全員の方から自分とフレンテみえとの関わりや、男女共同参画についての熱い思いを語っていただきました。さまざまな方の話を通して、今後、自分がどのように社会に参画していくかを考える良いきっかけの場となりました。

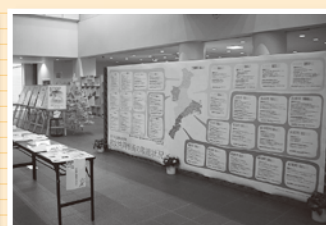


202030とは、「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度」を目指すという国の最重要課題を指します。

パネル展や女性が活躍して開発した商品の紹介・販売も実施!

三重県内の各市町や企業、団体などの男女共同参画への取組や活動のパネル展示を実施し、三重県の現状や課題を考えてもらう場となりました。また、育児や仕事、自分のからだのことなど、ママたちの「声」を集めた、日本財団のポストツリーの展示も実施。

8日(土)には四日市茶農家女子会の方々によるお茶やクッキー、PEARL PRINCESSの方々によるオリジナルボディジェルを販売。試食や試供品配布も行い、来場者の皆さまに好評をいただきました。



9月20日(土)
10月4日(土)
10月18日(土)

連続講座(3回)

フレンテみえエンパワーメント・スクール 協力:公益財団法人21世紀職業財団 女性のためのリーダーシップトレーニング

管理職やリーダーとして働く女性、これから目指す女性のための講座を行いました。今回は「職場でのリーダーシップ」と内容を絞り込んだのですが定員を大幅に上回るお申込みを頂き、急遽定員枠を拡大しての実施となりました。

講座では回毎に変わるグループでのワークを織り交ぜながら、女性が働く上で陥りやすいポイントの洗い出し、組織マネジメントや部下との関わり方等について学び、自分の目指したい組織やリーダー像を考えました。また、講座開始時から受講生同士が積極的に交流を図る姿がみられ、全講座終了時には帰るのも惜まれるほどみなさんが仲良くなり、各所で話に花が咲く姿がみられました。

参加者からは「時間管理の大切さに改めて気づいた」「組織の中の自分の役割を認識し、私ができる事を改めて整理したいと思った」「女性管理職が少ない中で、他業種の前向きに頑張っている多くの方と話ができて、励みになった」などの声が聞かれました。



8月30日(土)~
12月13日(土)

連続講座(8回)

平成26年度フェミニストカウンセリング講座 実践コース 女性相談・支援のための電話相談員養成講座

女性が抱えるさまざまな問題を、ジェンダーの視点で読み解くことができる電話相談員を養成する目的で、計8回の連続講座を行いました。毎回、女性相談の中で多くみられる課題をテーマに挙げ、講義と実習を通して、女性のための相談・支援とは何かを全員で考えていきました。

序盤では、感情の言葉が出てこない、言語化できないという声も多々聞こえてきましたが、講座の中で相談員、相談者と役割を変え、何度もロールプレイをする中で、受講者の中に講師から繰り返し言われた「相談員は言葉が命」というメッセージがしっかり胸に刻まれていきました。また、毎回講座終了後には、テーマに沿ったレポートが課せられました。学んだことを理解し、「制限のある文字数の中で自分の言葉で表すという作業は大変だったが、自分を振り返る大切な時間となった」という声が多く寄せられました。



11月15日(土)

平成26年度 女性に対する暴力防止セミナー「それDVです」

毎年、『女性に対する暴力をなくす運動』期間に開催している『女性に対する暴力防止セミナー』を今年は亀山市で開催し、会場は満席となりました。

まずは、夫からの暴力を乗り越えた女性が、自身や子どもたちの身に起きたことを語る朗読劇「ひまわり〜DVをのりこえて」を亀山朗読奉仕会に上演いただきました。会場では涙を流して聞いている方もいらっしゃいました。次に、米国と日本で、子ども・女性への虐待防止専門職の養成に30年近く携わってこられた森田ゆりさんからロールプレイやワークを通じてDVの関係に発展していく過程、被害者、加害者の気持ち、支援者にできることを学びました。参加型のセミナーだったことから、自分がいつ被害者・加害者になってもおかしくない、DVは身近なものであると実感できたことと思います。

参加者からは「気が付かないけれど、隣で起こっているかもしれない問題として理解できた」「DVの課題や相手に対する共感的な関わり方がよく分かった」などの意見が聞かれました。



出張します! 出前フレンテ

フレンテみえでは県内各地のイベントなどに男女共同参画の情報をお届けする「出前フレンテ」を行っています。今年度はこれまで4回のイベントで実施いたしました。

啓発には主にフレンテみえが作成したパネルを使用しています。今年度は「三重のパパイクジ・ママワーク」の展示を中心に行いました。このパネルは、三重県の現状を中心に、男性・女性の育児や家事への関わり方、働き方について掲載しており、固定的性別役割分担意識の解消へとつながることが期待できます。フレンテみえでは、このほかにもワークライフバランスやポジティブ・アクション、DV防止等の様々な啓発パネルをご用意していますので、ぜひ活用ください。

さらに、今年度出前フレンテでは、パネル展示だけでなく、シールアンケートを実施して意識調査を行うほか、啓発用グッズを配布することで、これまであまり男女共同参画に対して興味を持っていなかった方々に対してもアプローチができました。



はぴはぴエッセイ! Happy×Happy=Essey!

パワフルなママ・アナウンサー西本亜裕子さんのエッセイもついに最終回。今回はどんなお話を聞かせてくださるのでしょうか?

連載
最終回

『おおきくなったら?』 ⇒あなうんさーになりたい♪』

今、FMラジオ局のアナウンサーの職にある私ですが、会社としては2つ目です。大学4年間では内定がもらえず、出した卒論を教授から戻してもらって、わざと単位を落として5年生まで在籍し、23歳の秋、FM徳島からアナウンサー内定がもらえました。通っていたアナウンス学校では、同期の中で最後にアナウンサーになったのが私で、5年生3月の卒業を待たずに、在籍したまま、23歳の11月からデビューしました。苦戦した数年の間に、親に当たることも多く、「お母さんが、もっといい声に産んでくれへんかったから、アナウンサーになられへんねん!」と今思えばただの八つ当たりのようなことを言って、母を困らせたのを覚えています。ただ、入社後、「どうして私を採用して頂けたんでしょうか?」と、その答えを伺える機会があり、「西本さんを面接で見て、“ご両親に大切に育ててもらったんだろうな”というのがよく伝わってきたから」と教えて頂きました。あんなに親のせいにして自分を恥ずかしく思ったものです。

そんな私も、徳島で2年半過ごし、その後、三重でまたFM局のアナウンサーになり、早12年。その間に、私も2児の母になりました。そして、今4歳の娘が、最近「大きくなったら何になりたい?」というよくある質問に、「あなうんさー!」と答えたのです。これには私自身が驚きましたが、正直嬉しく思いました。子どものことなので、すぐ気変わりするでしょうが、娘が本当に願う時期が来たら、母の支えがあって今の私があるように、私も娘に母のようなことをしてやりたいと思っています。

徳島での経験のお陰で、「三重徳島県人会」からお声がかかり、毎年お目にかかる三重大学内田淳正学長からは、この秋、ご自身の著書もいただきました。「父から働くことの大切さや使命を学びました」という一文がありましたが、実は私も、今、ワーキングマザーとして働く中で、よく、父の現役時代の姿が浮かんでくることがあります。そんな両親の元で育った私が、今度は、子ども達に伝承していきたいと思っています。

そこには、いつも「はぴはぴ」なキモチがありますように…自分にそう願っています。



にしもと あゆこ
西本 亜裕子

レディオキューブFM三重アナウンサー。奈良県出身、三重県津市在住。37歳。2児のママ。2度の産休を経て、現在、開局以来初の産休取得ママアナウンサーとして、パワフルに仕事と育児を両立中。三重県少子化対策推進県民会議委員。

趣味は、ゴルフ、食全般(美味しいもの、お酒も大好き)。また、eco検定、フードアナリスト、防災士の資格も取得。

担当番組:『はぴはぴ子育て』(毎週金曜10:00~10:55) プロデューサー、ディレクター、パーソナリティと1人3役をこなしつつ、毎週、生放送でお送りしている子育て情報番組。子育て真っ只中のママならではの現在進行形のエピソードや話題、リスナーママ・パパから届く悩みを共有したり、時にはアドバイスしたりされたり…の参加型番組。大変なこともある子育てだけど、気分は、Happy×Happy(はぴはぴ)でお送りしています!

春に向けて! 『働く女性のネットワーク化』始動!

結婚や出産を機に約6割の女性が退職しているという現実。まだまだ女性が働きやすい社会とは言えません。女性が働き続ける中で、「仕事と子育て・介護との両立」、「管理職登用」等に悩んだり、壁にぶつかったりすることは当然のこと。

そこでフレンテみえでは、すべての働く女性たちを応援すべく、女性のキャリアアップ講座やネットワーキング交流会を開催します。職場や業種の枠を越えてつながり、刺激を感じられるような場を。そして何よりも楽しい。三重で働く女性たちがゆるくつながれる魅力あるネットワークづくりを目指します。

さあ、春に向かってスタート! 『働く女性のネットワーキング』関連セミナーとして下記を予定しています。ぜひご参加ください。

◆女性のためのエグゼクティブリーダーシップトレーニング

企業の利益を上げるためには、女性の活躍が欠かせません。

現在、管理職として働く女性がさらに一步、キャリアアップを目指すための講座です。

開催日:平成27年2月7日(土)、8日(日)、21日(土) 参加費:無料

対象:企業で管理職(課長級以上)として働く女性 講師:諸田 智美さん(女性と仕事研究所代表理事)他



◆女性のための1DAY起業セミナー ~いつからでもチャレンジ~

あなたの描くおもしろいビジョンを形に。起業に向けた第1歩を応援します。起業・創業に必要な知識を得て、ビジネスプランの作成を実践的に学びます。

開催日:平成27年2月25日(水) 参加費:無料

対象:起業・創業を考えている女性(1日通して受講可能な方)

◆働く女性のネットワーキング交流会

講演会:仕事もプライベートもハッピーに「佐々木かをりの時間管理術」

パネルディスカッション:働く女性へのメッセージ

開催日:平成27年3月1日(日) 参加費:無料

対象:企業等で働く女性

終了後、パネリストの方々にもご参加いただくディナー交流会を開催(参加費:4,000円)



※全て要申込。詳しくは、フレンテみえまでお問い合わせください。

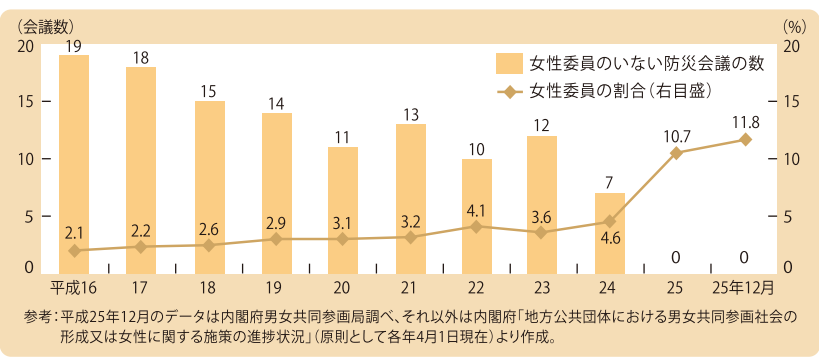
平成25年度
調査研究

『男女共同参画の視点からの避難所活用モデル』を作成しました！

いま、取り組むべきこと ～地域の防災力向上のために～

「意思決定の場」に必要な“多様性”

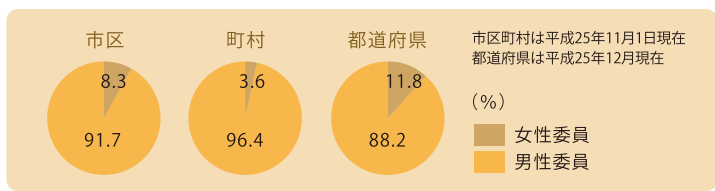
都道府県防災会議数と委員に占める女性割合の推移 平成25年版「男女共同参画白書」(内閣府)より



被災時に見舞われる様々な困難を軽減するには、まずその対策を進める防災会議などの意思決定の場にあらゆる声が届くようにする必要がありますが、特に性別に限ってみるとこれまで防災会議における女性委員の割合はとても低い状況でした。

東日本大震災以降、法律等の改正もあり都道府県レベルでの割合は増加しましたが、災害発生時に住民とより密接に関わる市区町村での割合はまだ大変低く、女性委員のいない会議は全体の約3割、特に町村では半数以上の会議に女性委員がいません。

防災会議に占める女性委員の割合(市区町村と都道府県との比較) 平成25年「男女共同参画白書」(内閣府)より作成



被災者は一人ひとり多様な存在で、そのニーズや抱える困難も多様です。「被災者」としてひとくくりせず、性別や人種の違い、障がいの有無など、様々な住民の声を対策に活かせる“多様性”を配慮した場での意思決定こそが、いざというときに力を発揮できる防災体制の確立へとつながるのです。

平常時から「男女共同参画」を!

しかし、防災会議はもとより、実際に避難生活が始まってから突然「避難所運営委員に女性も、外国人も、障がい者も」と呼びかけたところで決まってしまうかもしれません。そのためには、日常から多様性に配慮した地域環境を整えておく必要があります。

その第一歩は「男女共同参画」。日ごろから「男性は・女性はこうあるべき」など固定的な性別役割分担意識を解消し、性別に関わらず誰もが自分の意志に基づいて進める“生きやすい社会”にしておくことが、災害時にも地域の様々な課題やニーズに対応できる力強いネットワークを形成し、「地域の防災力」向上へとつながるのです。

フレンテみえでは「防災・減災と男女共同参画」に関する研修なども実施しています。～地域の防災力向上のために～、ぜひ活用ください。

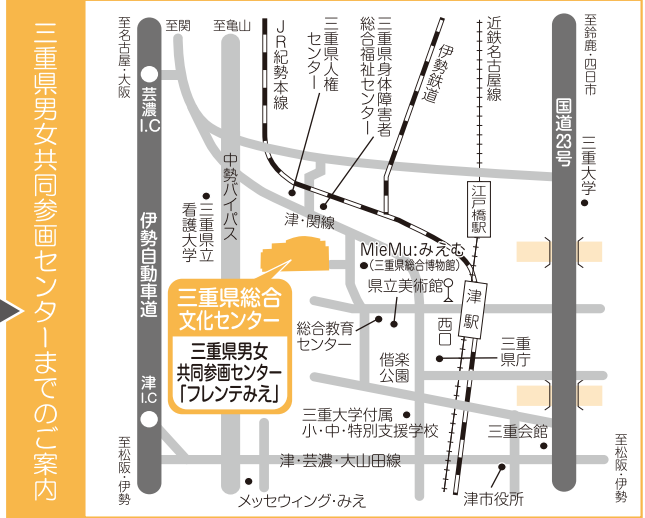
参考:「女性×男性の視点で総合防災力アップ」浅野幸子著(財団法人日本防火教会)、「男女共同参画の視点からの災害発生時における施設職員モデルおよび施設避難所活用モデル」三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」※フレンテみえホームページからダウンロードできます

フレンテみえって、なに?

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください!

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ



休館日 毎週月曜日 年末年始 (12月29日から1月3日まで)

交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自転車/伊勢自動車道津雲濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL http://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail:frente@center-mie.or.jp

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日	●	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30	休館日	●	—	—	●	●	●	●
夜 17:00～19:00	※	—	—	●	—	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり(翌平日が休館日)

フレンテみえ相談室のご案内
(切り取ってご利用ください)